

蛍と鯉の里づくり ~ふるさとの清流を

(広瀬町)

みや うち
宮 内

地域の概要

旧山佐村のほぼ中心部に位置し、集落内には山佐川が流れ、主要地方道安来木次線が通っている。役場の山佐支所や小・中学校、駐在所、郵便局、農協などが近くにある。高齢化が徐々に進んでいる集落である。

取り組み概要

1 経過

当初、6人程度の役員を中心にプランについての協議を進めたが、様々な案が出て意見集約が進まなかった。そこで、全戸にアンケート調査を行い事業についてアイデアを募集した。その結果、集落内を流れる山佐川の清流とそこに蛍が多く見られることはこの地域の誇れる資源であるとして、これを活かしていくことを軸にプランを策定した。

2 取り組みの状況

① 蛍まつりの実施

集落総出で山佐川沿いの個人所有地と河原の草刈りを行い、蛍の鑑賞ができる棧敷を整備しテントを設営できるようにした。蛍の見られる期間中は棧敷を常設いつでも活用できる。

この設備を活用して、平成12年度、13年度と継続して蛍まつりを実施した。集落内の全戸はもちろん集落外からも小学生などが多数集まり、蛍を鑑賞したり夕涼みをしたりしながら盛大な交流会となった。

② 鯉の放流

減反で生じた休耕田を利用して、鯉の稚魚約1000匹を飼育した。鳥に食べられたり、水と一緒によに田から流れ出てかなり数が減ってしまったが平成13年の秋に山佐川に放流することができた。鯉を放流する場所の整備も行い、当日は小学生を中心に子供達が大勢参加して山佐川の清流に鯉を放った。

③ 川の清掃

平成12年度、13年度と集落内の全戸から総出で1日かかりの河川周辺の環境美化活動を行った。山佐川の川辺の清掃、雑木の伐採や雑草の草刈りなどにより川周辺は見違えるようにきれいになった。また、この活動の結果集まったゴミの中には自転車、古タイヤ、ねこ車など大型

いつまでも残そう～

集落データ

- | | | | |
|------|-------|------|--------|
| 市町村名 | 広瀬町 | 集落名 | 宮内 |
| 戸数 | 21戸 | 高齢化率 | 36.1% |
| ジャンル | 環境・景観 | 策定年度 | 平成11年度 |

のものも含まれており、環境を守る意識を啓発するためゴミ収集場所の近くに展示した。

3 成果

蛭まつりでは、蛭を鑑賞しながら自然の中で時間を共有することにより集落住民の一体感の醸成を図ることができた。また、集落外の人達との交流を深めることができた。

鯉の放流や川の清掃では、住民の環境美化に対する意識が大きく向上した。川の周辺がきれいになったことによりゴミの投げ捨てがなくなり、自主的に河川清掃をする人も出てきた。みんなが川に目を向けるようになったのが一番の成果。

4 課題

- ① 高齢化や独居の人が増えており、事業を中心になって担う層が薄くなる傾向にある。
- ② 将来的にイベントや鯉の放流など事業を行うための財源確保が困難。



今後のビジョン

集落全体に環境意識が芽生えたので、いずれの事業についても今後とも継続していきたい。

今後の展開としては、蛭の幼虫を放し、もっと蛭の数を増やすこと、蛭の餌となる川二ナの増殖を図ること、鯉を見学できる場所を設置すること、粗大ゴミ集積所に看板を設置することなどを検討している。

将来的には、蛭の名所になればという願いも持っている。

集落代表者の声

前宮内区長 椿 一郎

プランの策定から各事業の実施まで全員がとても協力的でスムーズに進んだことが良かった。

特に、当集落は2つのブロックから構成されているため、行事などはブロック毎に実施するものが多く、全体として取り組むことが少なかったが、今回はプラン策定や事業を一体となって進めることができ、集落全体としてのまとまりや連帯が強まったと思う。

問い合わせ先

広瀬町役場 企画開発課
☎0854-32-2211 (代)

清流の郷 滝山交流

(伯太町)

しょうめい きょうわ
正盟・共和

地域の概要

伯太町の南東端に位置し、旧赤屋村の中心部から約4Km離れた山間地域。南側を東西に走る山並みの向こうは鳥取県日南町となっている。少子高齢化が進み、年金生活者がほとんどで中学生以下の子供はほとんどいない状況である。

取り組み概要

① 経過

地域には、県境に伯太町の最高峰鷹入山(706m)があり、その中腹には鳥根の名水百選にも選定されている「鷹入の滝」がある。10年前から、この滝を地域のシンボルとして地元自治会が連合して滝まつりを開催してきた。ちょうど10周年を迎える時期にあたり、地域の若者から大々的にやりたいとの声が出て、これをプランの中核にすることとした。

② 取り組みの状況

① 滝まつり実施

滝まつりでは、鷹入の滝から集落内の民家の庭まで約820mのソーメン流しを企画した。道路の占用許可や竹製樋のカビ対策など予想以上の苦労があったが、集落の団結で乗り越え、8月13日の当日には帰省客や近隣都市等からの来訪者千人余りが参加しテレビ、新聞でも取り上げられ大成功だった。ギネスブックへの登録も目指したが、申請手続きに不備があり認められなかったのが残念だった。

② 木工品の開発

木工旋盤作業は高齢者でも手軽に取り組めるため、木工旋盤を購入し木工品の開発に取り組んでいる。滝まつりではソーメン用の竹製品を作製し、来訪者への記念品として持ち帰ってもらった。その後、茶托やお盆などの製作に取り組み、オリジナル製品を開発し特産品化できるよう努力している。

③ 養魚池の整備

伯太川の源流であり伯太町最高峰の鷹入山から注ぐ名水の地であることを活用して、集落内に2カ所の養魚池を設置した。滝まつりでのニジマスつかみ取りやニジマスの塩焼きに一役買っている。また、鯉の養殖を始め、環境の美化に努めている。

集 落 デ ー タ

- 市町村名 伯太町
- 戸 数 4、7戸
- ジャンル 文化、産業、環境・景観
- 集 落 名 正盟、共和
- 高齢化率 44、50%
- 策定年度 平成12年度

3 成果

少子高齢化の波や若者の流出、転居などにより人口・戸数とも減少し、正盟、共和の両集落とも単独での集落維持が苦しくなっており、将来の集落の存亡が危ぶまれる状況にある。このような状況の中、この事業の取組をとおし一緒に自治会をやろうという気運が出てきた。

4 課題

- ① 集落再編を含め、地域集会所を建設したい。
- ② ますますの少子、高齢化の進行への対処。
- ③ 集落内での若いリーダーの養成。
- ④ 集落内の道路が狭隘。これの改良促進。



今後のビジョン

このプランの事業のような地域での共同事業を継続し協力し合うことで、日常的に拡大集落の関係を生み出し、集落統合を含めた話し合いの機会を持っていきたい。

集落代表者の声

正盟自治会長 恩田 恒雄

若者が少なく、ほとんどが年金生活者で高齢者であるため、「ボランティアどころではない」といった声もあるが、このイベントをつうじて今後も集落を活性化していきたい。

問い合わせ先

伯太町役場 総務企画課
☎0854-37-1001 (代)

奥出雲 杵つき餅の里

(仁多町)

こ あ い
小 阿 井

地域の概要

町の中心から約15km、国道432号を山あい約3km入ったところにある。稲作を中心とする農家がほとんどであり、山に囲まれた地形のため1日の気温差が大きく、生産される米は大変食味が良い。もち米「ヒメノモチ」生産に取り組んでいる。

取り組み概要

① 経過

昔から農作業や機械施設利用の共同化など、集落内で支え合ってきた。ここで生産されるもち米「ヒメノモチ」は食味が良く、杵でついた餅は粘りが強く形がくずれにくいいため、消費者から大変喜ばれている。これを活用した特産品づくりを進めることで話し合いは進んだ。イベント参加によりインパクトのあるPRができるよう、仁多の田園風景と集落名をプリントしたテントを製作、購入し、白は木目の美しいケヤキ製のものとした。

② 取り組みの状況

- ① 餅つきセットの購入
 - ・餅つき道具一式購入（蒸し器、ケヤキ製白ほか）
 - ・併せてPR用にテント、法被等を購入
- ② 仁多米を活かした特産品開発
 - ・ヒメノモチを活かした仁多の強飯の考案
 - ・蒜山おこわ料理講習会
- ③ イベント参加による仁多米、杵つき餅PR
 - ・阿井ふるさと祭り出店
 - ・自治会年越し餅つき大会
 - ・実演販売（於：出雲サティ）
 - ・田舎暮らし体験フェア参加（於：大阪梅田）
 - ・松江フォーゲルパークもちつき実演



集落データ

- | | | | |
|-------|-----|-------|--------|
| ●市町村名 | 仁多町 | ●集落名 | 小阿井 |
| ●戸数 | 16戸 | ●高齢化率 | 35.2% |
| ●ジャンル | 産業 | ●策定年度 | 平成11年度 |

3 成果

- ・集落で共同して事業を行うことにより、住民の連携が強まり、作業の協力体制が整った。
- ・仁多米の杣つき餅PRを通じ、特産品開発や地元産品販売の積極的な取り組みについての機運が醸成された。
- ・自ら生産したものを自ら販売することで、消費者とふれあい、生産した餅への反響や売れ行きを直に見ることでニーズを把握し、より品質のよいものを作っていきたいという意識が向上した。

4 課題

- ・もちつきそのものは重労働であるため、体力的負担が大きいこと
- ・年末には注文が殺到し、生産が追いつかなくなること
- ・事業として継続していくために経営の観点が必要であること
(生産計画、品質管理、経理等の充実)
- ・高齢化が進むことによる担い手不足、コメの耕作面積及び生産量の維持
- ・有害鳥獣による農作物被害

今後のビジョン

杣つき餅の生産や注文販売に対応するため、餅つき場を整備し、さらに積極的に取り組みが行われるようにするとともに、各地のイベント・催事に参加し、出張実演することで、仁多米や仁多の杣つき餅をよりPRしていきたいと考えている。集落営農とも併せ、集落活性化につなげていきたい。

集落代表者の声

小阿井自治会長 藤原 寛史

小阿井集落は伝統的に協調性、積極性があり、この事業の取り組みについても皆協力的で、プランをまとめるのに多くの時間は必要ありませんでした。催事を一つ一つ重ねるたびにさらに集落の連帯感が強くなったように感じます。

これまではイベント、催事を成功させ、消費者ニーズを把握することが主目的でしたが、これからは小さいながら「もちつき」を収益性がある事業ととらえ、資材調達、製造・販売方法に工夫を加え、商品開発を進めながらさらに充実した取り組みにしていきたいと考えています。

問い合わせ先

仁多町役場 企画財政課
☎0854-54-2542 (代)

栗とウォーキングで明るく健康 若木

(大東町)

わか き
若 木

地域の概要

町の南西部、役場まで約6 kmに位置している。標高は130~200m、周囲を山で囲まれた谷間の盆地形状の地形で、中心地に集落の世帯が集中している。近年10年間の集落の状況は、世帯数が1戸減少しているものの人口は逆に4名増加しており、今回の事業の該当集落ではまれな例である。

取り組み概要

① 経過

役場から各集落への説明会の後、精力的に集落で話し合いが進められた。集落の主導で、課題、テーマが話し合われ一定の方向付けができ、プランの策定については、これまでの取り組みの中から、「栗園の整備」、「健康づくり」の2つの柱を中心に活性化の計画が模索された。

② 取り組みの状況

① 栗園の整備

モデル集落育成事業（町単独事業）で取り組んだ集落の栗園が本格的な収穫の時期を迎え、十分な収量を確保するために排水路・進入路の整備、草刈等の維持管理を強化。

② 健康づくり

現在、盛んに行われているウォーキングを集落全体で取り組む。講師を招き、正しいウォーキングの仕方の講習を受けたあと、実際に集落内をウォーキング。

③ 公会所の整備

栗の収穫出荷作業、健康づくりの取り組みのため、集落の全員が気軽に集まって、話ができる集会所に改装。エアコン取付、天井張替、窓改修。

③ 成果

計画のとおり、ウォーキング講習会の開催、ウォーキングタイムの設定、栗園、公会所の整備を行った。公会所は栗の収穫作業の休憩場所、栗保管場所として当初の目的を達成している。

また、ウォーキングの取り組みでは正しい歩き方を集落で講習し、時間を設定することにより健康づくりと集落内での交流の場づくりにつながっている。

マロン計画

集落データ

- 市町村名 大東町
- 戸数 13戸
- ジャンル 文化、産業、交流
- 集落名 若木
- 高齢化率 36%
- 策定年度 平成12年度

これまで以上に集落に活気があり、今後栗の増収も見込めることから、この事業による集落活性化の効果が上がっている。

4 課題

- ① 栗園の維持管理
- ② 栗の増収、加工技術の習得や販路の確保



今後のビジョン

引き続き栗園の維持管理を進め、また、栗を集落内で楽しむため「若木くりまつり」を行う。

将来は今後の栗の増収とともに、加工技術の習得や販路の確保を行いたい。今後はこのための事業の模索や研修等を進めたい。

集落代表者の声

若木自治会長 森山 勝美

事業への取り組みにあたって日頃の自治会員の思いを話し合い、実施出来たことにより、連帯感・協調性がより強くなった。話し合いの段階では、実施の有無により自治会員（高齢者、女性部含）が「何をどうしたらいいのか」をテーマにブレインストーミングを重ねながら進めた。それぞれの立場の意見が得られ成果があった。役場担当課の適切な指導を頂きスムーズに推進することができた。

事業を継続するにあたって無理なく、楽しみながら参加できる方法の模索、栗の付加価値を上げる加工技術の習得に組みたい。

問い合わせ先

大東町役場 企画財政課
☎0854-43-6124

ふれあいと交流を通じた元気な「和」

(木次町)

ひがし しつ に
東・漆仁

地域の概要

湯村温泉、足名椎・手名椎の神陵、天が淵など美しい自然や史跡に包まれ、国道314号線と斐伊川が沿うように走り、集落はその東側山間部に位置し、南北に細長い地域である。平坦部には旅館、食堂、魚屋、鉄工所など自営業も数戸あるが、全世帯の約4割がサラリーマン世帯、6割が兼業農家である。そうした中、学校を卒業した者は就業、就学のために地域を離れる傾向となっている。

取り組み概要

1 経過

3自治会で結成されている老人会、婦人会、若者会等各種団体による話し合いを行い、それをもち寄って小委員会で集約することとした。プランは予想以上に多く、選考に苦労した。計画策定にあたっては要望が強く、全地域共通性のあるプランに視点をおき、“活力ある和の郷づくり”に調和する事項を最優先として計画を策定した。

2 取り組みの状況

① 湯村ジョギング駅伝大会

町内はもとより、県内各地から44チームを迎えて開催できた。大会の準備から運営を、子供から老人まで地区民総出で競技役員と接待を担当、手づくりのサービスと応援で選手との交流を深め、湯村地域をアピールする事ができ、地域の活性化につなげることもできた。

[大会参加者数は 平成12年=500人、平成13年=約600人となっている]



② 納涼大会

お盆に帰省する地域内出身者およびその家族、また、斐伊川対岸の吉田村大宝集落とともに合同開催し、故郷の良さを再発見・再認識してもらい、将来のUIターンにつなげる努力を行った。

③ 軽スポーツ大会

「グランドゴルフ」と「ペタンク」を取り入れ、地域内全員が参加できる大会として開催、非常に好評であり、住民一体となった活動として地域を盛り上げるスポーツとなった。

④ 各学習会

人権学習、交通安全教室、料理の講習会などメニューを豊富にこなし、老いも若きも共通の認識を持つことに期待をしている。

の郷づくり

集落データ

●市町村名	木次町	●集落名	東、漆仁、前側
●戸数	28、15、27戸	●高齢化率	37.2、47.9、25.2%
●ジャンル	文化、交流	●策定年度	平成12年度

⑤ 防犯灯の設置

中学生・高校生の通学時、また地区の会合等夜間に開催することが多く、中山間地域とはいえ住民が安心して暮らせる地域を目指し、今回の事業により防犯灯（街路灯）を設置した。

③ 成果

和の郷会館前広場の整備により、ベタンク用コートを設置し、老人クラブをはじめとして練習も盛んに行なわれ、親睦大会も開催した。

湯村ジョギングコース駅伝大会の継続や納涼大会の開催により、地域のまとまりも一層深まり、都市および他地域との交流も徐々に深まりつつある。

また、和の郷会館の冷暖房施設、マイク施設を整備し、より快適で地域住民が集まり易い会館となった。

④ 課題

- ① 活性化事業への継続的資金対策
- ② 温泉地域事業（公民館等）と湯村地域事業の整合化
- ③ 定住対策（農地の保全・後継者とそのパートナー）

今後のビジョン

今回「和の郷会館」の室内環境の充実とその周辺整備が整った。今後はこの施設を十分に活用し、地区民の活動の拠点として一層の交流の場とする。

また、ジョギング駅伝大会も継続して開催し、都市との交流を図り、湯村地域をアピールしていく。

今後少量ながらも、柚子、コンニャク、大豆など地区内で生産された農産物を加工し、販売できる組織も立ち上げていきたい。

集落代表者の声

湯村集落活性化委員長 西村 光弘

今回の事業の該当になった東、漆上と非該当の前側の3自治会が湯村集落を形成していますが、計画作成では3自治会および各種団体の意見を集約して事業計画を作成、集落一体となって活動に取り組みました。

この事業により、地域の交流を一層深めるとともに、住んでいる湯村を見直す機会を得る事ができ、今後の集落づくりに生かせると思いました。

計画の策定が自主的で、押し付けでなかった点が非常に良かったと思います。

今後は、整備した施設を湯村の活動拠点として、有効に利用すると共にイベントや、親睦事業も継続して開催し、交流を図って行きたいと考えます。

問い合わせ先

木次町役場 企画課
☎0854-42-1123

「弥山・高窪スカイラインロマン計画」 守ろう伝統 羽ばたけ

(三刀屋町)

うしろだにかみ うしろだにしも
後谷上・後谷下

地域の概要

町の中心部から約6km、標高約200mの中山間地に位置し、冬季は積雪が多く、通学、通勤にも困難することが多い。県道、町道も未改良区間が多く、狭隘、急カーブが多い。JRバス路線廃止に伴いスクールバスの住民利用を実施している。

かつて34戸あったが都市部への転出により現在に至っている。

取り組み概要

① 経過

後谷上・下2つの自治会では、以前から何か活性化に向けた取り組みができないものか話し合いを行なってきたが、平成10年に有志を中心として観光農園に向けたリング植栽を行ったところである。

時期を同じくして、この集落活性化のための補助事業が打ち出され、これを機会に2つの自治会総参加によって観光リング園を中心とした事業計画を策定することとなった。



② 取り組みの状況

① 観光リング園

平成10年に町有地借地50アールに11種200本のリング苗を植栽した。

まずリング園の管理・防除体制を整えるため、整枝誘引施設及び病害虫防除機器を整備し、作業の効率化を図った。

更に先進地のリング園視察や農業改良普及所・JA指導員による作業指導など、栽培技術向上のための取り組みを行ってきた。

平成13年には、集落全体で初のリング収穫祭を開催、幼稚園や保育所にも収穫したリングを贈呈した。

ミキサーを購入し、ジュース製造にも取り組んでいる。

② 伝統芸能（獅子舞）の伝承

地域の神社で行われ一時途絶えていた獅子舞を昭和56年に復活させた。

古老や壮年層で以前の獅子舞を知る者を先達に、壮年・青年男子で保存会を結成し、女性の協力を得ながら秋祭り等を中心に活動を行っている。

リンゴ村

集落データ

●市町村名	三刀屋町	●集落名	後谷上、後谷下
●戸数	10、13戸	●高齢化率	35.7、37.2%
●ジャンル	産業、交流	●策定年度	平成11年度

この事業導入によって、獅子舞衣装や余興道具を購入、地域の祭りでの奉納や女性の協力を得て餅まき、豚汁、ぜんざいなどの催し等集落活動が活気づいた。

現在、活動の記録・保存や病院施設訪問等も積極的に行っている。

3 成果

集落内の目標、夢が明確化され、少しずつではあるが着実に実を結んできており、これが住民の励みとなっている。

リンゴの栽培・管理については真剣さが出てきたことと、一方共同で作業を行うことによる楽しさもあって皆積極的である。

毎年、次のステップを無理のないよう行っており、集落全体での歩みとなってきた。

4 課題

- ① リンゴ樹木の管理・防除技術を向上し、良質なリンゴ生産と収量の増加を図っていくこと。
- ② 駐車場の整備、休憩所・販売所の設置、選果場の整備により観光リンゴ園として軌道に乗せること。
- ③ リンゴ園のオーナー制度導入を検討すること。
- ④ 獅子舞の伝承をビデオ化し、伝統芸能を保存すること。
- ⑤ 後継者の育成に積極的に取り組むこと。

今後のビジョン

まずは観光リンゴ園としてスタートしたい。

隣接には、「コープファームみとや」という和牛約160頭の肥育牧場がある。また約1km先には弥山NTT中継塔があり、車で行くこともできるが、恰好のハイキングコースとなっており、眺望は360°、北に穴道湖、東から南に中国山脈、西に大社湾、出雲ドームが望める。そこから峯の山道を歩けば峯寺・峯寺遊山荘へと行くことができる。

こうした観光資源とタイアップした観光開発を進め、自然を満喫できる場所として多くの観光客を誘致していきたい。

集落代表者の声

リンゴ園組合会長 高橋 信雄

今回の事業のおかげで、高窪後谷上・下自治会共同によるリンゴ園の経営管理、獅子舞の保存活動に勢いがついたと思います。

その間、町当局をはじめ、各方面のご指導ご鞭撻を賜り、また地区の皆様方の積極的な参加をいただき事業が円滑に進んでおります。

今後、観光リンゴ園を軌道にのせること、オーナー制度を導入し都市との交流を図って参りたいと思います。更に、「コープファームみとや」や峯寺、松本古墳等の観光資源とタイアップした開発によって活性化が図られれば良いと考えております。

ホームページによるPRなども積極的に行って参りたいと思います。

問い合わせ先

三刀屋町役場 企画課

☎0854-45-2112